



第117回

品質管理シンポジウム

開催要領

テーマ：原点回帰！品質経営を改めて考える
～品質不祥事の防止と真の顧客価値創造、
必要な組織能力～

2024年3月

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟
後援：一般社団法人 日本品質管理学会

本資料は、必要に応じて出力し、当日ご持参ください

第117回品質管理シンポジウムのメインフレーム

特別講演 お客様への感動を追求する、「変化し続ける」寿司屋のチャレンジ
菊水鮓西店 店主 柏木 延浩 氏

基調講演・オリエンテーション
原点回帰！品質経営を改めて考える
早稲田大学 理工学術院 教授（117QCS 主担当） 棟近 雅彦 氏

講演 1 次の社会へ、信頼のこたえを～川崎重工のグループビジョン 2030 と TQM 活動
川崎重工業(株) 代表取締役社長執行役員、最高経営責任者 橋本 康彦 氏

講演 2 企業倫理の観点からみた品質不正事案の背景と防止策：最近の日本製造業の不祥事から
梅津総合研究所(株) 代表取締役
一橋大学大学院 経営管理研究科 講師 梅津 光弘 氏

講演 3 UBE における経営意識改革推進～失敗を機会に～
UBE (株) 代表取締役社長 社長執行役員 CEO 泉原 雅人 氏

講演 4 品質不正の防止に向けて
西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士 木目田 裕 氏

【ご確認ください！】品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

- 品質 … 顧客及び社会のニーズを満たす度合い
- 品質保証 … 顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
- サービス・ドミナント・ロジック … 価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる
※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
- グッズ・ドミナント・ロジック … 価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている
※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。
- コト価値の考え方…顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。

提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客様のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。

つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。

第117回品質管理シンポジウム プログラム

テーマ：原点回帰！品質経営を改めて考える
～品質不祥事の防止と真の顧客価値創造、必要な組織能力～

開催期間：2024年5月30日（木）～6月1日（土）

会場：大磯プリンスホテル

月日	時間	科目	講演者（敬称略）
5月30日 （木）	19：00～20：10	〈特別講演〉 お客様への感動を追求する、「変化し続ける」寿司屋の チャレンジ	柏木 延浩 菊水鮎西店 店主
	20：10～20：30	〈質疑・応答〉	
	20：30～22：00	GD（1）、談話室	
5月31日 （金）	8：30～8：40	主催者挨拶	佐々木 眞一 （一財）日本科学技術連盟 理事長
	8：40～9：25	〈基調講演〉〈オリエンテーション〉 原点回帰！品質経営を改めて考える	棟近 雅彦 早稲田大学 理工学術院 教授 （117QCS 主担当）
	9：25～9：40	〈質疑・応答〉	
	9：40～9：45	入替（5分）	
	9：45～10：35	〈講演1〉 次の社会へ、信頼のこたえを ～川崎重工のグループビジョン2030とTQM活動	橋本 康彦 川崎重工業株式会社 代表取締役社長執行役員、 最高経営責任者
	10：35～10：50	〈質疑・応答〉	
	10：50～11：00	休憩（10分）	
	11：00～11：50	〈講演2〉 企業倫理の観点からみた 品質不正事案の背景と防止策：最近の日本製造業の不祥事から	梅津 光弘 梅津総合研究所株式会社 代表取締役 一橋大学大学院 経営管理研究科 講師
	11：50～12：05	〈質疑・応答〉	
	12：05～13：00	昼食休憩（55分）	
	13：00～13：50	〈講演3〉 UBEにおける経営意識改革推進 ～失敗を機会に～	泉原 雅人 UBE 株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 CEO
	13：50～14：05	〈質疑・応答〉	
	14：05～14：10	入替（5分）	
	14：10～15：00	〈講演4〉 品質不正の防止に向けて	木目田 裕 西村あさひ法律事務所・ 外国法共同事業 弁護士
	15：00～15：15	〈質疑・応答〉	
	15：15～15：35	GD会場へ移動・休憩（20分）	
	15：35～19：00	GD（2）	
19：00～20：00	夕食		
20：00～21：30	談話室		
6月1日 （土）	8：30～10：00	GD報告（10分×8班 ※予備10分）	司会：棟近 雅彦 報告：各班リーダー
	10：00～10：15	休憩	
	10：15～11：30	総合討論	
	11：30～11：50	第117回 品質管理シンポジウム まとめ	棟近 雅彦
	11：50～12：00	次回（第118回）品質管理シンポジウム案内	118QCS 主担当組織委員 森 雅彦
	12：00～	昼食・解散	

※GD：グループ討論の略称

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

※組織名・役職は、2024年3月現在の表記になっております。

※談話室はCOVID-19の感染状況等に鑑み、中止する場合がございます。

117QCSグループ討論 GDテーマ、趣旨と論点

品質不祥事の防止における経営トップ層の役割		
飯塚 悦功 (東京大学名誉教授) 長谷川武英 (クオリテック品質・環境システムリサーチ 代表)		
第1班	趣旨 品質不祥事を防止するためには、経営トップ層（取締役、執行役員）が、絶対に発生させないという不退転の決意を示し、実際に不祥事防止にコミットすることが肝要です。こうしたことについては、どの組織の経営トップ層も頭では理解していると思われませんが、具体的に何を実施すればよいか、必ずしも明らかになっていません。 品質不祥事を防止しなければならないという前提のもと、組織は、競争環境の中で生き残り、持続的成功を実現しなければなりません。経営トップ層には、これらいずれの側面においても、リーダーシップを発揮することが求められます。 品質不祥事を防止しながら品質を中心とする経営を行っていく上で、経営トップ層が率先垂範すべきことについて議論します。	論点 ①顧客価値提供による持続的成功をめざすにあたり、品質不祥事防止の観点から経営トップ層に期待される思想・行動原理は何か。 ②①の価値観の浸透を図るうえで、阻害要因となりうる人の特性や組織論理は何か。 ③こうした状況下で、経営トップ層は、TQMの名の下で何を実施すればよいか。コミットするとは何を意味するか。
品質不祥事の防止における部課長の役割		
金子 雅明 (東海大学 情報通信学部 情報通信学科 教授) 平林 良人 (㈱テクノファ 取締役会長)		
第2班	趣旨 組織経営において、経営トップと現場の第一線の橋渡し役として、部課長の役割は重要です。経営目標の達成に対しても要であるとともに、品質不祥事の防止においても、現場で問題が起きれば現場が声をあげられるような風土を作る、現場に品質不祥事の徴候があればいち早く検知して対処する、自部署のみで解決できない問題であれば経営トップや関連部署に支援を求めるなど、果たすべき役割は多岐にわたります。このような役割を果たすために、部課長はどのような行動をすべきか議論します。	論点 ①不祥事を起こりやすくしている実態（社会情勢、ビジネス環境の激化、部門・課への要請・期待・プレッシャー、構成員の多様性とその働き方への配慮等）としてどのようなものがあるか。 ②①の実態を踏まえて、不祥事を確実に防止するための、部・課長としての困りごととは何か。 ③不祥事を確実に防止するために、部・課のマネジメント（TQMを含め）においてどのような施策や工夫をすればよいか。
品質不祥事の防止における品質保証部門の役割		
鈴木 秀男 (慶應義塾大学 理工学部 教授) 島田 達也 (三菱電機㈱ 執行役員)		
第3班	趣旨 品質保証部門は、設計、製造等の部門が、顧客要求を満たす製品・サービスを生み出すことができるよう様々な支援を行うとともに、品質不祥事に限らず、適切に業務が行われるように他部門を監視、牽制する役割を持っています。そのために、他部門とは独立して責任・権限をもって活動する必要がある一方で、製品品質の改善のために、他部門と連携しながら業務を行うことも少なくありません。顧客に対して品質保証を行う責任部門として、どのような活動を、どのような組織体制で業務にあたらればよいかについて、議論します。	論点 ①各部門が不祥事を行わないよう牽制するためどのような活動を行えばよいか。 ②検査における不祥事を防ぐためにどのような工夫をすればよいか。 ③品質保証機能は、どのような組織体制で実践するのがよいか。
品質不祥事を防止するための現場管理のあり方		
安藤 之裕 ((一財)日本科学技術連盟 嘱託) 高倉 宏 (トヨタ自動車九州㈱ TQM 推進室 室長)		
第4班	趣旨 実際に品質不祥事が行われてしまうのは、設計、製造、検査などの現場です。品質不祥事防止のために、防止策を実行するとともに、不祥事に結びつきそうな異常をいち早く発見し、着実に対処していく必要があります。現場には、経営目標を達成するためのスケジュール、効率化、工数低減、コストダウン、などのプレッシャーが、絶えずかかってきます。また以前とは違い、労務管理が厳しくなっています。このような状況下でも不祥事は許されたいことであり、現場管理をどのように行うかは重要な課題です。品質不祥事を防止するために、現場管理にどのような工夫を取り入れればよいか、議論します。	論点 ①今、「現場で」何が起きているか。（「起きているも不思議ではない／起きているかもしれない」も含む） ②①の背景は何か。「起きてしまいそうな現場の背景（環境）」「声を上げにくい現場の背景（風土）」など。 ③上記の対策として、現場管理者が取り組むべきこと、心がける事。

品質不祥事を防止するための人材育成の方法		
梶原 千里 (静岡大学 情報学部 行動情報学科 准教授) 鈴木 啓介 (川崎重工(株) 技術開発本部 プロセスエンジニアリングセンター TQM 推進部 基幹職)		
第5班	趣旨 昨今発生している品質不祥事には、「品質は定められた手続きを遵守することで保証する」、「品質のよい製品・サービスを提供し続けることが、企業が生き残り、持続的成長をするための最良の方法である」といった、品質を中心とした経営を行っていく上で重要となる、品質に関する基本的考え方が浸透していなかったことが要因となっているものが少なくありません。これを浸透させる一つの方法は、教育を徹底することです。これまでもTQMでは、人材育成、教育を重視してきました。これからは、品質不祥事の防止という観点も、教育に取り入れていく必要があります。第5班では、そのような教育の実現に向けて、どのような内容を、どのように教えるべきかを議論します。	論点 ①品質の大切さを全部門、全階層に浸透させるには、どうすればよいか。 ②不正でなく改善を行うことが自然となるようにし、品質不祥事を防止するためには、各階層に対して何を教えればよいか。 ③②をどのように教えると効果的か。
品質不祥事を防止するための組織文化・風土作り		
高橋 勝彦 (広島大学 大学院先進理工系科学研究科 客員教授) 米澤 昭一 (ニチアス(株) 顧問)		
第6班	趣旨 品質不祥事を防止するためには、規則、基準、手順等を定めることも重要ですが、その前提として、これらのルールを守る組織文化・風土が根付いている必要があります。組織全体が品質不祥事を容認せず、倫理的な行動を奨励する環境が整うことで、品質不祥事発生リスクを最小限に抑えることが可能になります。このような組織文化・風土の重要性は、既に広く理解されていると同時に、実際の構築が容易でないことも知られています。したがって、品質不祥事を防止する組織文化・風土作りに関して、組織の枠組みを超えて組織の知識や知見、また世代間の考えや風習を分析し、今後の方策を考えていくことが重要です。品質不祥事を防止する組織文化・風土とはどのようなものか、それを醸成するにはどうすればよいかについて議論します。	論点 ①品質不祥事を防止するために、どのような組織文化・風土を築くべきか。 ②そのような組織文化・風土を築くためにどのような具体的方法が考えられるか。 ③そのためにTQMをどのように活用できるか。
品質不祥事の早期発見と適切な対処		
鬼頭 靖 (株)アイシン TQM推進部 主査) 五味 俊一 (旭化成(株) モビリティ&インダストリアル事業本部 生産基盤統括部 品質保証部 部長)		
第7班	趣旨 品質不祥事は発生させないことが一番よいことであるのは当然ですが、とはいえ、企業は競争環境の中で利潤を追求しなければならず、人のプレッシャーに対する弱さもあり、品質不祥事が発生するリスクを常に抱えているといえます。したがって、万が一不祥事が行われた場合には、それを早期に発見する仕組みを持っていることも重要です。また、発生した場合の調査方法や対応方法を事前に計画しておくことも重要です。これに対して、内部通報制度、内部監査、外部審査、品質点検、顧問弁護士の活用、危機管理システム等の仕組みを運用している企業もありますが、残念ながら有効に機能しなかった場合も少なくありません。このような早期発見のための仕組みを有効に機能させるためには、どのような工夫が必要かについて議論します。	論点 ①品質不祥事を内部の力で早期に発見するためには、内部通報制度、内部監査、品質点検等の仕組みをどのように活用すればよいか。 ②早期発見のための仕組みを有効に機能させるためには、どのような工夫が必要か。 ③検出された品質不祥事に対し、確実に是正につなげるためには、どのような備えをしておけばよいか。
品質不祥事を防止するための適切な技術の活用		
佐野 雅隆 (拓殖大学 商学部 准教授) 菊池佐知子 (楽天グループ(株) グループ品質部 部長)		
第8班	趣旨 品質不祥事の典型例として、データ改ざん、ねつ造、流用、必要事項の省略などがあります。また、製品に適用される法・規制、規格等に関する最新の情報を把握して遵守する必要がありますが、それらを適切に追従することができず、結果的に違反してしまう事例もあります。このような品質不祥事は、人がデータ等を扱う、人の知識や記憶に依存した仕組みになっていることが大きな要因になっていると考えられます。このような品質不祥事に対しては、人がなるべく介在しないように仕組みを構築することが有効と考えられます。また、それを可能にするICTを中心とした先端技術の進歩はめざましいものがあります。品質不祥事を防止するために活用できる先端技術は何か、どのように活用すればよいかについて議論します。	論点 ①品質不祥事を防止するために、先端技術(IoT、AI、DX等)をどのように活用すればよいか。 ②製品に関わる法・規制、規格等に、適切に追従するためにはどうすればよいか。 ③先端技術を活用する仕組みの中で、人はどのような役割を果たすべきか。

* GD 会場の収容人数の関係から各班 15 ~ 30 名となります。先着順となりますので、第 1 希望の班が定員に達した場合、第 2 希望とさせていただきます。

* 組織名・役職は、2024 年 3 月現在の表記になっております。

集合参加の皆様へ

(1) 開催までの流れ（事前準備等）

GD（グループ討論）ご参加の皆様は、品質管理シンポジウム開催日より前から事前のグループワークがスタートします。

シンポジウム当日の限られた時間の中でのグループ討論をスムーズに進行していくために、お申込み後、ご自身の所属班が決まりましたら（4/18頃）各班メーリングリストを開始いたします。

メーリングリストにて、メンバー同士の自己紹介（※1）や、意識・用語などの認識の擦り合わせ、当日の話し合う論点の絞り込み等（※2）を行って頂きます。

4月18日頃	GD参加班決定のご連絡およびGDメーリングリストの開始
※1	GDメンバーリストと自己紹介のご案内を、事務局から参加者ご本人にメールでお送りいたします。 ご自身の参加するGD班をご確認頂き、事務局からご案内するメールに従って自己紹介等をお願いいたします。
※2	GDリーダーを中心に、メーリングリストを介しGDの論点案についてメンバー間で意見交換を行って頂きます。総合討論の論点・提言の枠組みを踏まえて ①テーマについて「どの範囲に絞って討論するのか」を提示する。（GDリーダー） ②その範囲で「何を論点として討論するのか」を提案する。（メンバー） ③メンバーが提案した論点案を整理する。（GDリーダー、記録係） * GDリーダーによって進行の方法は様々です。事前アンケートなどを行う班もあれば、テーマ趣旨論点によっては自己紹介のみの班もございます。
5月17日頃	品質管理シンポジウム開催のご案内メール送信
5月27日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
5月30日～	第117回品質管理シンポジウム開催

* 報文集は当日現地にてお配りいたします。

(2) 開催日当日ご準備頂くもの

服 装：

- 1) 楽な服装でご参加いただいて結構です。ネクタイ着用の必要はありません。
- 2) シンポジウム受付時に名札をお渡ししますので、会期中胸につけて下さい。
- 3) マスク着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねます。

持ち物：

- お名刺（50枚程度）
- 筆記用具
※あればGD時に便利なもの
- ◆ モバイルPC又はタブレット端末等

GDでは各班ごとにZoomをご利用いただけます。お席によってプロジェクタ画面が見つからない場合に、Zoomにログインいただけますとお手元のPC、モバイル端末でプロジェクタ投影画面をご覧いただけます。

ただし、お部屋によってはWi-Fiの電波が弱い場合ポケットWi-Fiもお持ちいただくと安心です。

会場のご案内（1日目）

5 月 30 日 (木)	大磯プリンスホテルまでの交通機関 タクシーで、大磯駅から約7分（約1,800円） 小田原駅から約30分（約5,800円）	
	シンポジウム受付 チェックイン	シンポジウム受付・チェックインは1F 客室棟玄関です。 ・17:00 から受付を開始いたします。 （19:00 以降のご到着の場合は、ホテルフロントに受付が移動となりますのでご注意ください。） ※詳細はP9館内地図をご確認ください。 【館内のご案内】 ・各部屋インターネットが無料をご利用になれます。 ・大磯プリンスホテルは全館禁煙です。 ※喫煙は、屋外の喫煙スペース(1F)でお願いします。 ※ホテル内各居室等での喫煙(電子タバコも含む)が確認された場合、クリーニング代として50,000円を請求いたします。
	夕 食	メインバンケットホール(かもめ) ・17:30～18:45(到着が遅れる場合は19:30迄)にお取りください。 ・お飲み物をご自弁いただきます。
	特 別 講 演	メインバンケットホール(白鳥、鶴) ・19:00 から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席を用意しております。
	GD	各会場(当日ご案内いたします) ・特別講演終了後、20:30 から開始いたします。 ・1日目のGDは、グループで自己紹介(名刺交換等)を行って頂きます。
	談 話 室 (QCバー※)	各GDの会場 ・自己紹介終了後に情報交換の場としてください。 ・ホテル1階メインバンケットホール前に、飲み物とおつまみをご用意しております。 各グループから、数名の方が取りにきてください。 ・談話室は、会場利用の関係から22:00迄となります。

会場のご案内（2日目）

5 月 31 日 (金)	朝 食	メインバンケットホール(かもめ) ・6:30～8:30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	講 演	メインバンケットホール(白鳥、鶴) ・8:30から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席を用意しております。 ・会場には、お水(ペットボトル)をご用意しております。
	昼 食	メインバンケットホール(かもめ) ・12:05～13:00にお取りください。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
	給茶サービス	メインバンケットホール ホワイエ ・GD 開始前 15:15～15:35の休憩・GD 移動時間に講演会場外のホワイエにコーヒー、紅茶をご用意しております。 ・お飲み物は、そのままGD会場へお持ちいただけます。
	GD	各会場 ・別途、班ごとの会場をご案内いたします。
	夕 食	メインバンケットホール(白鳥・鶴) ・19:00～20:00で立食パーティー(※)を予定しております。
	談 話 室 (QCバー※)	メインバンケットホール(かもめ) ・会場は20:00からご利用いただけます。(会場は21:30迄。自由参加) ・参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とつまみをご用意しております。

※ご夕食の形態、談話室(QCバー)はCOVID-19の感染状況により、変更・中止の場合がございます。

会場のご案内（3日目）

6 月 1 日 (土)	朝 食	メインバンケットホール（かもめ） ・6：30～8：30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	チェックアウト	プログラム開始前に、「メインバンケットホール入口」にてルームキーを回収いたします。 ※但し、お部屋にて有料のルームサービスやマッサージご利用の場合は、8：30までにホテルフロント（スパ棟1F）にてチェックアウトをお願いします。
	手 荷 物	メインバンケットホール（白鳥、鶴）後方 ・貴重品の管理は各自でお願いします。
	G D 報 告 論 と 総 合 討 論	メインバンケットホール（白鳥、鶴） ・8：30～12：00の予定です。 ・会場入口に、GD報告資料と水（ペットボトル）をご用意しております。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席をご用意しております。
	昼 食	メインバンケットホール（かもめ） ・12：00～お取りいただけます。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
<p>大磯プリンスホテルからの交通機関</p> <p>①シンポジウム終了後、QCS企業・団体会員の参加者向けに大磯駅行のマイクロバスを運行いたします。詳細は、当日現地にてご案内致します。</p> <p>②大磯駅に向かう路線バスがございます。 「大磯プリンスホテルバス停」 「大磯プリンスホテル入口バス停（ホテルより徒歩5分）」</p> <p>③タクシーをご利用の方は、ホテルフロントに直接お申し出ください。</p>		

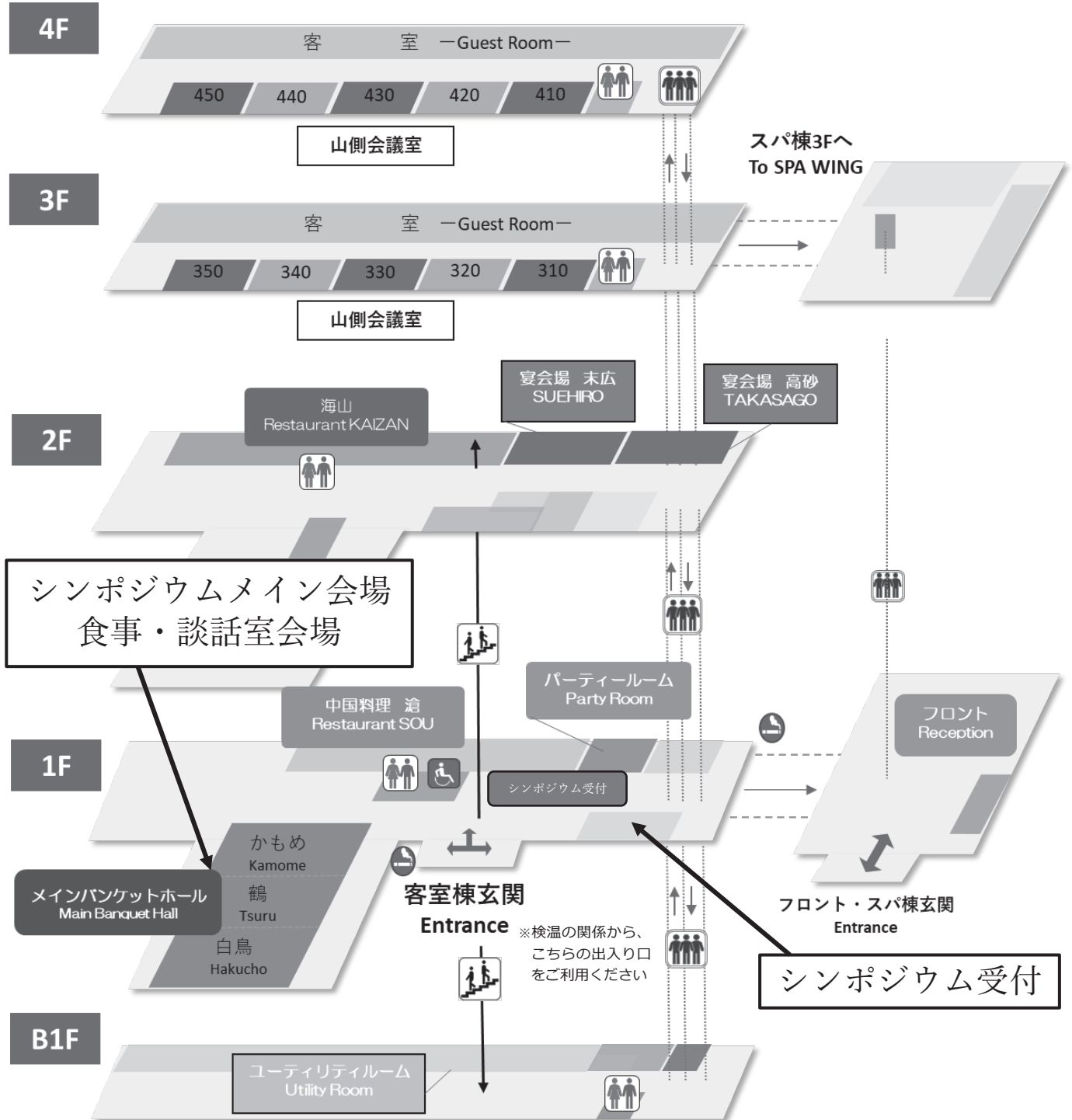
大磯プリンスホテル 会場案内図

集合参加の皆様へ

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546

TEL : 0463-61-1111

客室棟



グループ討論 (GD) 会場

※ 3F・4Fの山側会議室、2F宴会場「末広」「高砂」、B1「ユーティリティルーム」を使用します。

※ 会場となる会議室はシンポジウム当日ご案内いたします。

ライブ視聴参加の皆様へ

インターネットを通じてお手持ちのPCやタブレット端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）をライブ視聴頂けます。

※ライブ視聴参加の場合は、グループ討論（GD）にはご参加いただけません。

※1IDにつき1参加者となります。複数名でのご視聴はできません。

開催までのスケジュール

5月13日	品質管理シンポジウムライブ視聴参加のお申込み締切
5月16日頃	報文集ご送付（以降お申込み順次発送） ※お申込み担当者様宛にお送りいたします。 動画配信サイト Deliveru よりご視聴用 ID・PWD ご連絡（参加者宛にメール送信）
5月17日頃	品質管理シンポジウムご案内メール送信（視聴方法等ご確認いただけます）
5月27日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
5月29日	参加者様へ Deliveru より ID・PWD ご連絡メールの再送（最終ご案内）
5月30日 19:00～	第117回品質管理シンポジウム開催

ライブ配信は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）を使用したストリーミング配信で行います。

※当日に視聴できないとお問い合わせを頂戴した場合、対応できない場合がございます。

必ず事前に、以下の視聴テストサイトで推奨環境に適合しているか、動画の視聴において映像・音声再生されるかを確認してください。

<https://deliveru.jp/pretests/video>
ID・PW：livetest55

※視聴テストサイトでは、2つの動画が連続で再生されます。必ず、それぞれの映像と音声が行き届くかをご確認ください。

※推奨環境は、以下をご覧ください。

<https://deliveru.jp/faq/#Q7>

開催当日（参加中）の通信トラブル等に関するお問合せは下記までご連絡ください。

TEL：080-1709-9977（会期中のみ）

E-mail：qcs@juse.or.jp

その他ご案内

参 加 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ●集合参加……………現地（大磯プリンスホテル）にてシンポジウムの全プログラムに参加可能 ●ライブ視聴参加…インターネットを介し PC やモバイル端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）が視聴可能 ※ライブ視聴参加の場合、GD へは参加できません。 <p>◆シンポジウム申込方法 QCS 専用 WEB サイトよりお申込みください。 https://www.juse.jp/qcs/</p>
参 加 費	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員／団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の 2 名分、団体会員は通常枠の 1 名分の無料枠をご利用いただけます。 トップ枠を使用されない場合、無料枠は通常枠の 1 名分のみとなります。 無料枠以外にもご参加される場合は、集合参加、ライブ視聴参加共に、57,200 円／1 名となります。 ●一般参加 ライブ視聴参加のみ、132,000 円／1 人にてご参加可能です。 ●団体参加（ライブ視聴参加のみ） シンポジウム各講演（1～2日目）、GD 報告・総合討論（3日目）を経営幹部、関係部署の方々、多くの方々にご視聴いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 50 名まで …………… 550,000 円 51～100 名まで …… 880,000 円 101～200 名まで … 1,100,000 円 ※ 201 名以上の場合は、品質管理シンポジウム担当までお問い合わせください。 ●招待討論者 集合参加にて、シンポジウムすべてのプログラムにご参加いただきます。 ※招待討論者は、シンポジウムの GD や総合討論を活発にするため、広く産・官・学より品質管理・TQM、顧客価値創造等に造詣の深い方々をお招きしております。参加費は頂いておりません。 <p>◆参加費に含まれるもの 集合参加者の 1 日目夕食、2 日目昼食・夕食、3 日目昼食</p> <p>◆請求書について 参加費の請求書は、シンポジウム開催の 1 ヶ月前を目途に順次お申込みのご連絡担当者宛にメールにてお送りいたします。 お振込期限は請求書発行日より 2 ヶ月以内となります。</p>

*日科技連より
ご請求書を発行いたします。

その他ご案内（集合参加）

交通費	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員・団体会員 ご自弁願います。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り 								
宿泊費 * (株)ジャパトラ よりご請求書を 発行します。	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員・団体会員 1人部屋（2泊 49,700円）*朝食付き、消費税・入浴税・サービス料込 ※時節柄、1部屋（ツインルーム）をお一人でお使いいただきます。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り ● 宿泊費キャンセル料 旅行開始の前日から起算してさかのぼって： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">① 5月23日（木）17：00より前の解除</td> <td style="text-align: right;">- 無料</td> </tr> <tr> <td>② 5月23日（木）17：00以降～ 5月29日（水）17：00より前の解除</td> <td style="text-align: right;">- 旅行代金の20%</td> </tr> <tr> <td>③ 5月29日（水）17：00以降の解除（④を除く）</td> <td style="text-align: right;">- 旅行代金の50%</td> </tr> <tr> <td>④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊</td> <td style="text-align: right;">- 100%</td> </tr> </table> ● 請求書について 請求書は、以下スケジュールに沿って申込時の連絡担当者様宛に順次 メールにてお送りします。 お振込み期日に余裕をもったお申込みをいただきますようお願い申し上 げます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 4月30日迄のお申込み→お申込日より2週間以内に発送 ● 5月1日～13日のお申込み→お申込日より3日以内に発送 ● 5月14日以降のお申込み→お申込日より3日以内に発送 <div style="float: right; text-align: right;"> } 5月24日(金)迄に お振込みください 別途指定期日迄に お振込みください </div> </div>	① 5月23日（木）17：00より前の解除	- 無料	② 5月23日（木）17：00以降～ 5月29日（水）17：00より前の解除	- 旅行代金の20%	③ 5月29日（水）17：00以降の解除（④を除く）	- 旅行代金の50%	④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	- 100%
① 5月23日（木）17：00より前の解除	- 無料								
② 5月23日（木）17：00以降～ 5月29日（水）17：00より前の解除	- 旅行代金の20%								
③ 5月29日（水）17：00以降の解除（④を除く）	- 旅行代金の50%								
④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	- 100%								
宿泊の部屋割り	部屋割は事務局に一任させていただきます。								
その他	① 所定の食事以外の飲食・電話・マッサージ等個人的な費用はご自弁願いま す。 ② 食事メニューは事務局に一任させていただきます。 ※記載金額はすべて税込みとなります。								

【シンポジウムに関するお問合せ】

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当：安随、密、橋本、鈴木（佐）
〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビルディング 4階
TEL：03-5990-5846 E-mail：qcs@juse.or.jp

【ご宿泊に関するお問合せ】

株式会社ジャパトラ QC デスク 担当：柏木、鶴川、高梨
〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 8階
TEL：03-6915-3646 E-mail：qcdesk@japatra.co.jp

※ 117QCS より宿泊手配については、(株)ジャパトラが担当いたします。

品質管理シンポジウム会員内規

1. 一般財団法人日本科学技術連盟は、その主催する品質管理シンポジウムの研究目的を達成するため、品質管理シンポジウム会員を募る。
2. 品質管理シンポジウム会員は品質管理シンポジウムの趣旨に賛同し、下記の会員1口以上を負担する法人、団体または個人とする。
企業会員：1口につき年額221,100円（消費税込み）
団体会員：1口につき年額128,700円（消費税込み）
 - (1) 会員は年2回開催する品質管理シンポジウムに対し、会員一口に下記の参加枠を確保できる。
企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）（トップ（会長もしくは社長）が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の1名のみ）
団体会員：無料参加枠1名（通常枠）
 - (2) ただし、参加に必要な交通費、宿泊費（部屋代）は自己負担とする。
 - (3) 本シンポジウムの報文集・実施報告ならびにその他のシンポジウム関係資料を配布を受ける。

(2024年4月1日改訂)